

特集 2 リゾート開発における諸問題

自然公園とリゾート開発

元中村学園大学教授
福岡教育大学非常勤講師

尼川大録

はじめに

現在の日本は経済大国といわれ、動く金も大きくなっている。また一方、週休2日制へと進みつつあり、時間的な余裕も増えてきている。したがって、世はリゾートブームにわかかえるのではないかといった形勢がうかがわれる。

さて、リゾートといっていろいろであろうが、その立地条件としては一般に景色のよいところが考えられ、その点自然公園などは先ず注目されるところであろう。日本人1人は、統計上からは年4回ほど自然公園を訪れているという。筆者は福岡県自然環境審議会の自然公園部会に属し、自然公園の施設などの審議にかかわってきたので、一例として耶馬日田英彦山国定公園の英彦山地区をとりあげ、私見を述べてみよう。

自然公園は、いわば自然を提供するところである。自然公園法には、その目的として、すぐれた自然の風景地を保護するとともにその利用の増進を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資することをあげている。自然を守るために保護計画が立てられる。すなわち、重要度に応じて第一種ないし第三種特別地域（特に重要なところは特別保護地区）が指定され、それぞれ規制が行われる。一方、利用を増進するために利用計画が立てられ、駐車場、園地（散策、ピクニック、風景鑑賞などの広場でときに造園が行われ、一休み施

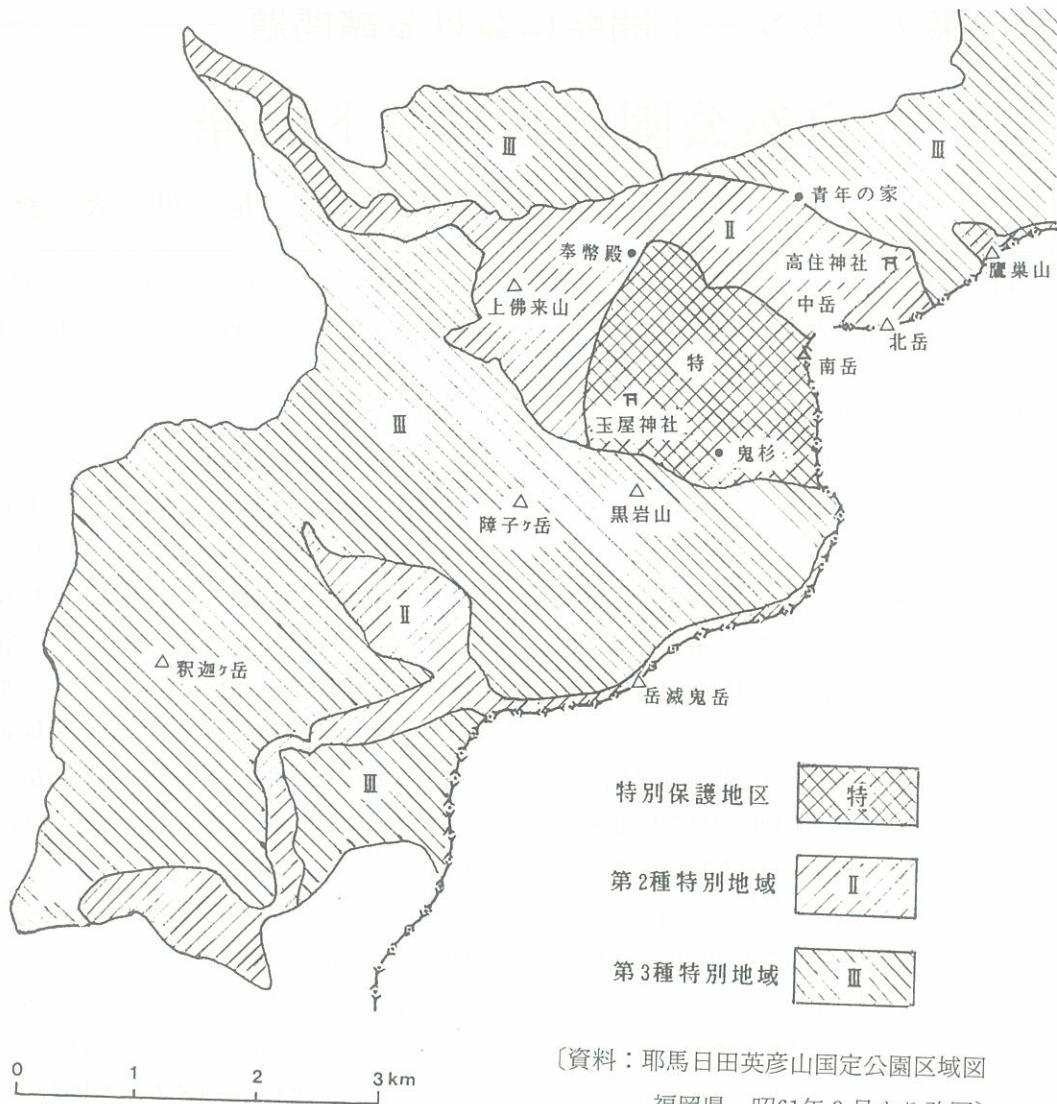
設などを含む）、休憩所、公衆便所、野営場、運動場、スケート場、博物館、植物園などの施設が公園事業としてつくられる。

英彦山の自然と保護計画

英彦山は溶岩、集塊岩、安山岩などの火山性岩からなり、英彦山神社上宮のある中岳を中心として北岳、南岳の3峰がある。北岳の東方には、典型的なビュート地形として国指定の天然記念物である鷹巣山がある。高住神社（豊前坊）から北岳に登る途中には、絶壁をなす望雲台や奇岩の逆鉢岩がある。南岳から鬼スギ（国の天然記念物）に降る途中には材木岩と呼ばれる安山岩の柱状節理が見られる。また、西南に連なる岳滅鬼山をきざむ深倉峡にも、屏風岩などの奇岩怪石がある。

このように、地質上見るべきところが多いが、英彦山において最も重要な保護対象は、何といっても生態系の基底をなす森林であろう。ここには、みごとなブナ林がある。そして、北岳から南岳に至る尾根には、ブナ林下にクマイザサが密生している。南岳山頂から西南、またクマイザサ区域の下方には、太平洋側のブナ林に特有のスズダケがはえている。

クマイザサは、元来日本海側のブナ林下にはえるもので、積雪1mを超えるような多雪地帯に適応している。実際に英彦山は福岡県で最も雪が多く、中腹の草原地はスキー場となっている。このようなブナ林は、九州では



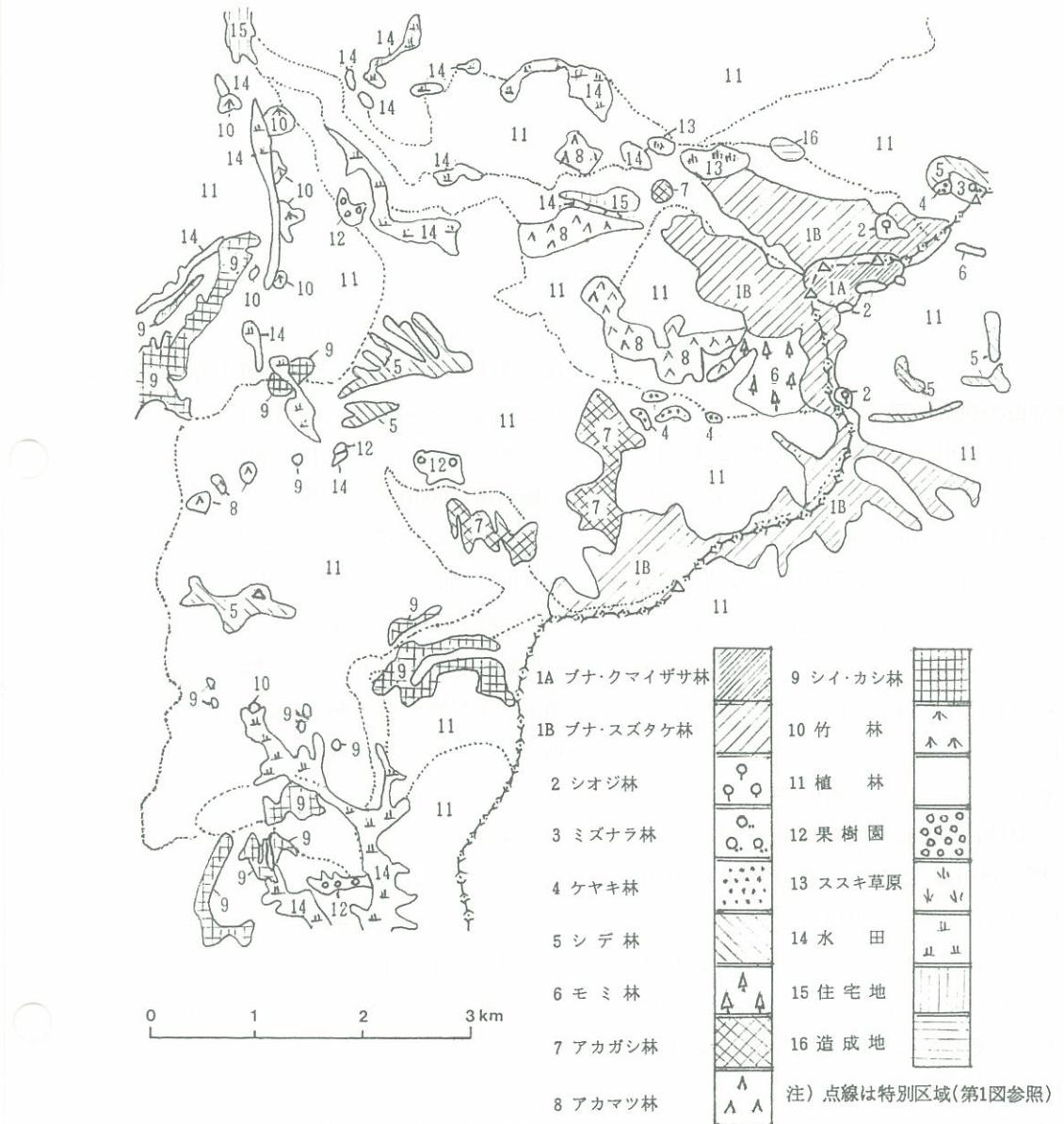
〔資料：耶馬日田英彦山国定公園区域図
福岡県 昭61年3月より改写〕

図1 英彦山の特別地域区分図

英彦山とこれに続く犬ヶ岳のみで、学術的にもきわめて価値が高い。

さて、図1には英彦山地区の保護地域の区分図を示している。また、図2には植生図を示しているが、保護区域の範囲を点線で示して重ねあわしてある。図2をみると、特別保

護地区の中に植林の部分がかなり深く食いこんでおり、最も重要なクマイザサを含むブナ林はほとんど全くはいっていない。さらに、北岳下方のシオジ林（ブナ帯の谷の典型的植生）も県下で最も良好なものであり、これらを特別保護区にとりこむように拡張すべきで



[資料：環境庁第2回自然環境保全基礎調査(昭. 57)吉井図幅より改写]

図2 英彦山の現存植生図

ある。

耶馬日田英彦山国定公園が指定されたのは昭和25年のことであり、特別地域の指定は昭和45年であった。当時は十分な植生図も出来ていなかったと思われる。そもそもクマイザサの名はまだ英彦山で知られていなかったの

で、ヒコサンザサと呼ばれていた。クマイザサの名は、筆者が昭和46年に同じ国定公園内の犬ヶ岳で採ったササを、その方面的専門家鈴木貞雄博士に送って同定を求めた結果与えられたのであった。その後、鈴木博士に来てもらって、英彦山でも確認したのであった。

ブナ林の性格も、それから明らかになったのであった。英彦山の植生図がはじめて公刊されたのは、「福岡植物誌」(昭和50年刊)であったと思う。

英彦山の場合に限らず、保護計画が実状に合っていない例はいろいろあると思う。自然公園の保護計画も、ときに見直しの必要があるのではなかろうか。

英彦山の利用計画

英彦山の利用計画に基づく施設は、何回にもわたって次々と設けられた。主なものとして、公園事業とはまた別であるが県立英彦山青年の家は昭和47年に、野鳥の森は昭和49年につくられた。九州自然歩道は九州全体で昭和56年に完成したとされているが、英彦山を通る部分は「九州自然歩道」上巻(昭和51年)に紹介されている。

昭和57年にはスケート場の建設が決定した。リンク面積1,800m²、付帯建築物を合わせて造成面積5,583m²、さらに付帯駐車場3,510m²(100台収容)といった規模である。スケート場はとりわけ望ましい施設ではないが、自然公園内の施設として認められており、また良好な自然を破壊するわけでもないので、地元添田町の振興に資するという意も含まれていると考えられる。

昭和59年には、利用客の増加を理由として

(表1参照)次の施設が認可された、当時の英彦山地区施設整備計画を図3に示す。

(野営場) 鷹巣原周辺は、野外レクリエーションの場としての利用者が増加して、現有施設での収容は困難であるため野営場を拡張するもので、既設キャンプ村の状況は表2の通りである。新設の鷹巣原野営場は、テントサイトの面積は15,000m²で400人を収容でき、他に炊事棟、管理棟などの付属建築物があり、また隣接して園地(サイト造園4,000m²、休憩所つき)がある。さらに昆虫観察路800mや野鳥観察路1,000mなどの探勝路が加えられる。少し離れているが、県道甘木豊前線に沿って2,000m²(56台収容)の駐車場も設けられる。

(駐車場) 既設の別所地区駐車場は増加する自動車を収容しきれない状態となっており、路上駐車が増えて交通に支障を来している。別所地区に第二駐車場(1,400m²)を新設する。

(深倉園地) 深倉峡は自然の景観に富み、近年この地を訪れる利用者が増加の一途をたどっており、その利用者のための園地で、サイト造園900m²、休憩所33m²を主体とし、探勝路も計画されている。隣接して1,000m²の付帯駐車場も設けられる。

自然公園とリゾート開発

利用者が多くなれば、自動車が増えている

表1 添田町目的別入込客数調

| 耶 馬 日 田 英 彦 山 国 定 公 園 | 目的 年 | 一般行楽 | 祭 行事 | 社寺・史蹟 文化財 | ハイキング 登山 | キャンプ | 釣魚 観光漁業 | その他 | 合計 |
|---|---------|---------|---------|--------------|-------------|--------|------------|--------|-----------|
| | | | | | | | | | |
| | 53 | 472,500 | 50,000 | 250,000 | 255,000 | 50,000 | 1,500 | 1,000 | 1,080,000 |
| | 54 | 471,500 | 55,000 | 260,000 | 255,000 | 55,000 | 1,500 | 2,000 | 1,100,000 |
| | 55 | 423,600 | 51,000 | 270,800 | 206,800 | 67,000 | | | 1,019,200 |
| | 56 | 358,100 | 45,800 | 286,700 | 272,500 | 66,000 | | | 1,029,100 |
| | 57 | 381,000 | 48,800 | 305,900 | 311,000 | 70,400 | 1,300 | 16,300 | 1,134,700 |

表2 既存英彦山キャンプ村調（昭57）

| キャンプ場名 | 収容能力 | 収容人員 | 所 有 者 | キャンプ場管理者 |
|----------|------|--------|-------|-----------|
| 鷹巣原キャンプ村 | 450人 | 18,000 | 地元区有 | 観光協会 |
| 豊前坊キャンプ村 | 150 | 6,000 | 英彦山神社 | 同神社の個人委託 |
| 竜門狭キャンプ村 | 430 | 17,200 | 個 人 | K.K. 大場興業 |
| 深倉狭キャンプ村 | 50 | 2,000 | 地元区有 | 協 業 体 |

*収容人員はシーズンを40日として計算した

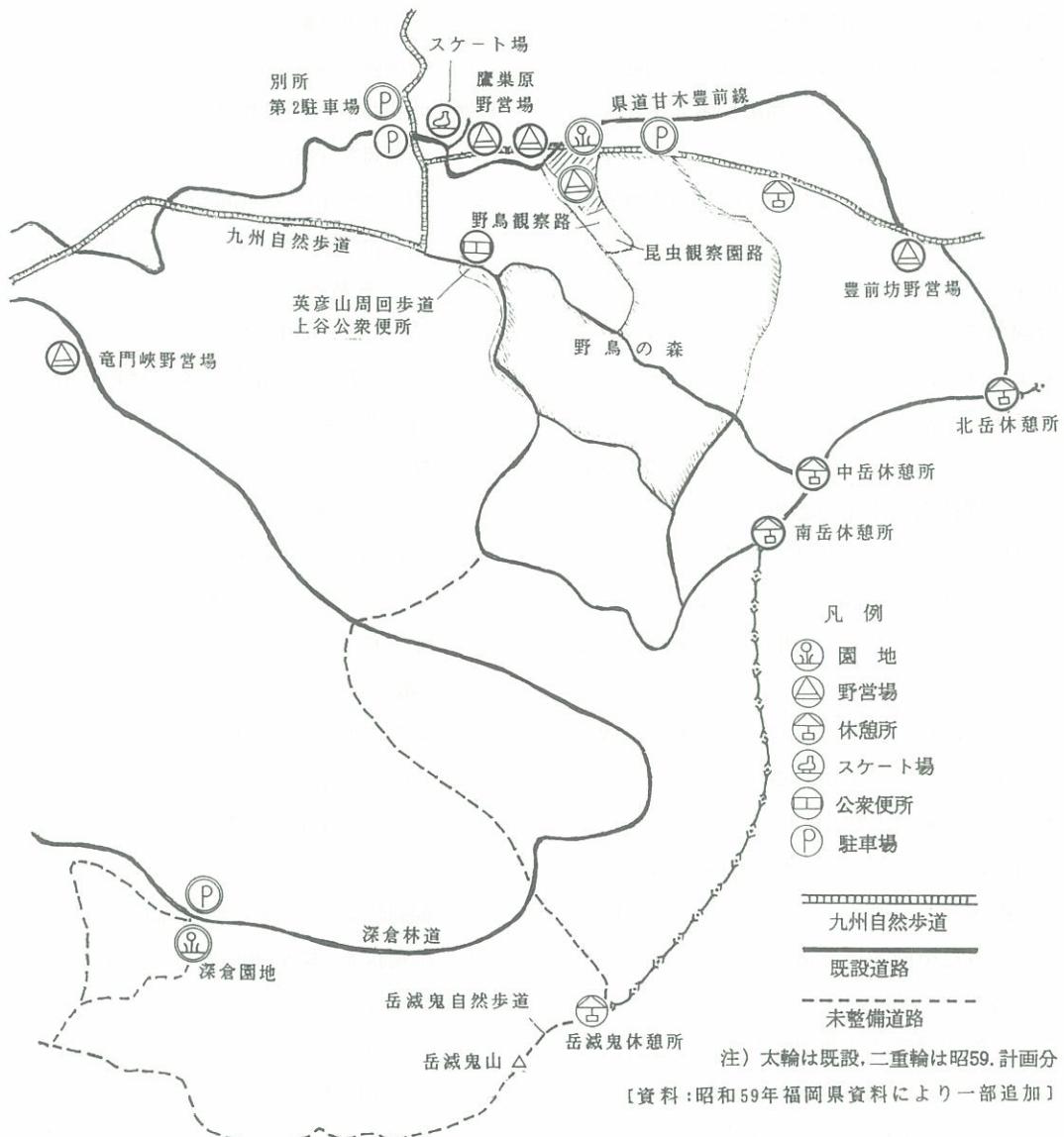


図3 英彦山地区施設整備計画要図

今日、最少限度の駐車場や公衆便所などの施設はやむをえないものであろう。前年熊本県の菊池渓谷を訪れたときは、渓谷入口の駐車場が狭いため、路上に延々と駐車をしているのを見て驚いたことがある。

自然公園では自然に接することが第一であって、その自然を護ることが他の何よりも優占する。利用のための施設は少なくともそのために良好な自然を破壊するものではあってはならない。園地などがしばしば問題となるところで、悪くすると都市公園の手法をそのまま持ちこんで、まわりとそぐわない造園が行われたりする。せっかくの良い森林を切りはらってソメイヨシノを植えこみ、桜の名所をつくることなどは論外である。前述の深倉園地では、前にあった高木はできるだけそのまま残し、低い木だけを植えこむという計画であったが、どのようなものができるかがあつたであろうか。自然公園には、それにふさわしい造園技術の開発が必要であろう。

自然公園におけるリゾート開発は、その自然の特性によく適合したものでなくてはならない。どこにでもある人集め的な施設は望ましくない。

さらに、自然公園の目的の中に国民の教養に資するという一項がある。これは自然そのものによる無言の教化ということもあるのであろうが、レンジャー（自然観察指導員）による指導とか、啓もう的パンフレットの配布とかといった積極的な方策が望ましい。そのための基地としての施設が各地で建てられているが、福岡県では玄海国定公園内の志賀島にビジターセンターが建設されたところである。レンジャーの配置がないのは残念であるが、パネルやマルチスライドで啓もうを行う予定

である。このような施設が各自然公園に設けられることを希望するものである。

著者略歴

氏名：Tairoku Amakawa

学歴：広島高等師範学校理科第三部卒業

理学博士(昭和36)

職歴：昭和30年6月～昭和51年3月

福岡県立修猷館高等学校教諭

昭和52年4月～昭和63年3月

中村学園大学、中村学園短期大学教授

(一般教養；生物学)

昭和61年～63年(前期)

福岡教育大学非常勤講師(植物分類学)

著書、賞、研究例等：福岡県植物誌(編・著)(昭和50博洋社

福岡県の自然、現状と保護対策(編：著)

第1～8集 昭48～62 福岡県の自然を守る会

福岡市の植生(編：著) 昭和58 福岡市

ふくおかのみどり(尼川・神野・冷川共著)

昭62 福岡市

検索入門樹木①、②(長田武正と共に著) 昭和63 保育社

自然環境保全基礎調査(植物)福岡県総括責任者

福岡県文化功労者(昭和51福岡県)

委員：昭和48年～現在 福岡県自然環境保全審議会委員

昭和55年～現在 福岡県文化財保護審議会専門委員(植物)

昭和62年～現在 福岡市公害対策審議会委員